

国際業務の 窓辺から

CLAIR 経験者からの
メッセージ



クレア勤務を振り返って

愛媛県経済労働部観光交流局国際交流課 主任 加藤 康一郎

入庁5年目の冬、出先機関の土木事務所へ入札・契約業務に携わっていた私に、突然クレア派遣（ソウル事務所勤務）の異動が内示されました。パスポートすら持っておらず、海外に行ったことがない私にとっては、まさに青天の霹靂でした。「なぜ自分が選ばれたのだ」という疑問と、経験したことのない海外赴任に対して不安がありました。しかし、帰国した今振り返ってみると、東京本部での勤務も含め、クレアでの3年間は私にとって忘れることのない貴重な経験になりました。

ソウル赴任中、韓国では、当時の朴槿恵大統領に対する弾劾による罷免、北朝鮮情勢の深刻化などさまざまな状況の変化が起きました。朴槿恵大統領の退陣を求める通称「ろうそく集会」は、週末になるとソウル事務所のすぐそばの広場で開催され、社会の変化を求める市民の熱気をいまでも覚えています。

ソウル事務所では、職員の住居契約手続き・在留資格取得といった庶務から、日本の地方自治体の観光プロモーション、また、派遣元である愛媛県を中心とした活動支援などさまざまな業務に携わりました。

そうした業務の中で、韓国人と接し、最も苦労したことが、「日本の常識が通用しない」ということです。当たり前のように思えますが、隣国であり、生活様式・文化も似ている韓国でさえ、これほど仕事のやり方・考え方が違うのかと驚きました。日本人同士であれば「言葉にしなくても」通じる最低限の「常識」（共通の認識）が通じず失敗したことが数多くありました。そうした経験から、自分が「なぜ、どうして」そのように考え行動しようとしているのか、相手に対して「言葉にして」伝えることの大切さを学びました。

現在は、韓国、東南アジアからの誘客セールス・プロモーションおよびサイクリングによる誘客を担当し、ソウル事務所勤務で得られた知見・経験を活かす仕事をし

ています。訪日外国人観光客は、リピーターが増加し、東京・大阪といった都会だけでなく地方にも足が向き始めています。愛媛にとって好機だと捉えています。他の地方自治体も同様に誘客に力を入れています。競争が激しくなる中で、他の地方自治体にはない愛媛の魅力をPRし、韓国、そして世界の人に「愛媛に来てよかった！また来たい！」と思ってもらえるよう微力ながら努力したいと考えています。



韓国人プロガーによる日本の地域の取材



愛媛県議会議員有志による韓国進出県内企業の視察

プロフィール・ほか

- 現職
愛媛県経済労働部観光交流局国際交流課 主任
- 業務内容
韓国、東南アジアからの誘客、プロモーション
サイクリングによる誘客 など
- クレア時代の所属
2015年4月～2016年3月 多文化共生部多文化共生課
2016年4月～2018年3月 ソウル事務所 所長補佐